

改正

中山道往來全



西行法師

物うらむ

木草の

うけぢ

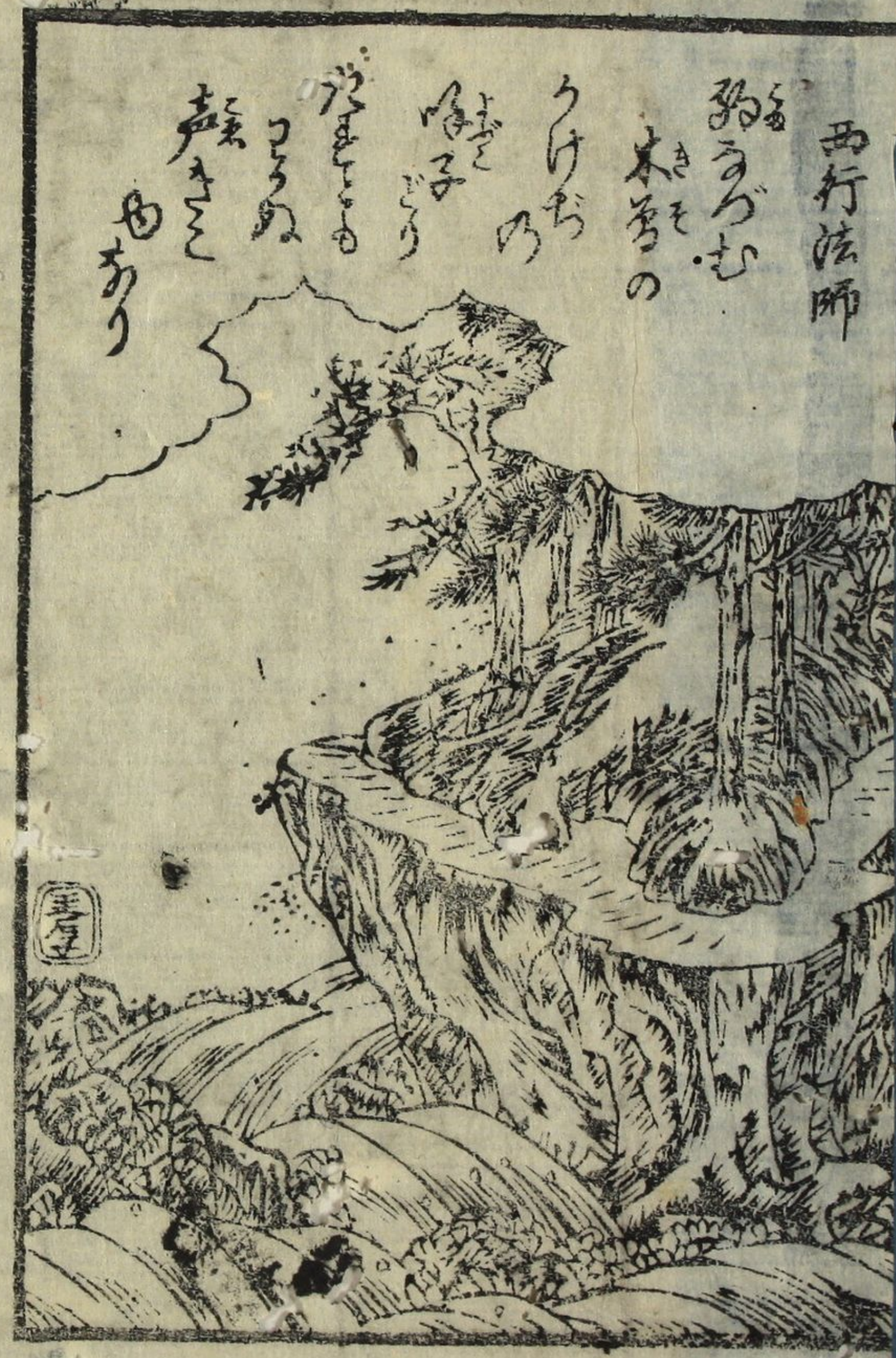
吟子

うらむ

こころぬ

声きこ

あり



中山及陸奥

於路もつる此海

まじりて今中山道哉

公一宇路余り不

九の世宿もむたあふ



板橋をわたる舟かては
先づき出る妻乃藤の
まこと情ふ浦和は輝
るて愛えむさの一紙
字大さ如きをみ物

上尾より舟に桶川也
病もも似る家鶴の葉も
有る名深谷本庄の
古くをたてた新断乃

中山

三

在少の倉栗野里法
名も以のる勝の板
鼻取あえく名ひ安中
片流を松井田坂のそを
至て雁水の作こえ

河面みまむる松井津
狗の運ひも當獄多
遠を一人を送分は田圃の
以りも小田井を山守
中流も岩むる田流なる

何のぬほなきに移さ
 八幡の正月の世を吹
 風をさすまじく蒼田の
 霧乃長久保より休ふ
 程遠き山人も和回乃

高様の孝乃雪解ま
 ちがれ下への御坊湖有
 月ちの記は陸尾尔
 洗馬のともち知る年山
 や袖ももる熱川の

若し是れ水も奈も食井
~~あり~~ あり名あり敷
右の宮は越へる
係は実そ本宮の
名もろくも御も

福嶋も松なるの
上松も吹風も
浪もなる野尻の里の
又枕夢も三の
素も就也松もる

中山
出^ひく^し敷^ふ妻^{づま}あ^ちせ^の色^{いろ}も
落^{おち}合^{あひ}り^しあ^らぬ^は乃^の
中^{なかつ}津^つ川^{がわ}さ^ら下^ろ大^{おほ}井^いの
と^とみ^みあ^く大^{おほ}久^く手^て
細^{ほそ}久^く手^てあ^らぬ^は
乃^の

和^わ嶽^{がく}の^の女^めま^まさ^らう^う袖^{そで}
婦^めま^まの^のま^まさ^らう^う見^み乃^の
宿^{やど}右^{みぎ}田^たの^の町^{まち}ま^まさ^らう^う花^{はな}
の^のか^かげ^げ埋^{うめ}む^む籍^{せき}沼^{ぬま}此^{こゝ}
朽^{くち}も^もせ^せぐ^ぐお^おり^りひ^ひ加^か納^{なつ}

中山

崎^{うき} さま 河^か 渡^{わた} も 遠^{とほ} の
石^{いし} 不^ふ 可^か 美^み 江^え 古^こ を
三^{さん} 赤^{あか} 坂^{さか} や と 者^{もの} ぬ
壺^か 井^い 乃^の 背^せ 井^い 乃^の 流^{なが}
ま 紙^し と 免^{めん} の 関^{せき} が 花^{はな} ら

今^{いま} 瀬^せ の 里^{さと} や 柏^{かしわ} 系^{けい}
ゆ 免^{めん} の 隈^{かみ} の 磯^{いそ} 井^い
乃^の 糸^{いと} も 直^{ただ} ち ぬ
美^み 女^め 場^ば 竹^{たけ} の 袖^{そで} 糸^{いと}
美^み 女^め 乃^の 居^い 在^あ 後^ご の

神も高き女とおびく
夕ぐさ愛知川の波に
際せむる武佐の若
以つる月をうらむ
草まゝ紙に書きて
草ま

分け栄の宿の
大津と云瑞の花に
九草の巻をうらむ
目出度けれ

新右衛門町 糸丸

